

## 6 - ① 幼児・児童の交流活動例 5年 総合的な学習の時間より

本取組では、5年生の児童と年長組の幼児が遊び等の交流を行う。

**5年生**は「総合的な学習の時間」のカリキュラムの一つと位置付ける。接し方はもちろん、遊びの選択、創造などを含めたコミュニケーション活動を主活動に据え、インタビューなどの情報収集、思考ツールを活用した情報の整理などにも取り組む。最後には、「わたしの5・5デー BOOK」として、活動を他者に伝えようとする。

**5歳児**は幼児が児童と一緒に遊んだり活動したりすることを通して、その楽しさを感じ、親しみや安心感、信頼感、憧れの気持ちを持ち、小学校への期待を高めることをねらいとする。

幼稚園と小学校の  
共通指導案

## 5・5デー(5歳児と5年生の交流活動)

ねらい

**5歳児** 5年生に自分の思いや考えを言葉で伝えながら一緒に遊びや活動を楽しむ。

**5年生** 園児との遊びや先生や保護者へのインタビューを通して、幼児期の子どもの思いや育ちを理解し、望ましい接し方を考えるとともに、学んだことを自らの生活や行動に生かそうとする。

小学校

児童の姿

教師の支援や援助・環境の構成

幼児の姿

幼稚園

## 交流1回目 どんな人と出会えるのかな？

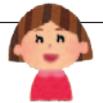
緊張しているのかな。自分が5歳だった頃はどうかだったんだろう。

できるだけ笑顔で過ごした方が相手も安心できるかもしれない。

同じグループの5年生はどんな人かな。

ドキドキ

ワクワク



もっと〇〇さんのことが知りたいな。1回目の遊びをどんな風にすれば…？

幼児のいろいろな思いに共感しながら、安心できるような言葉や仲良くなることに期待をもてるような言葉をかける。

親しみがもてるよう、教師も積極的に5年生と関わる。

一緒に遊ぶときに気を付けることを考えよう

ピラミッドチャートを使って、絶対に守ることや、できたら良いことを整理

新たな発見に関すること

相手を喜ばせようとする

安全面に関すること



振り返り

5年生と会ってどんな気持ちでしたかな？

ドキドキしたー。

やさしかった。

名前覚えたよ。

## 交流2回目 一緒に遊ぼう① (幼稚園で幼児の好きな遊びを一緒に行う活動)

力は加減しながらも全力で遊ぶぞ！	一緒に喜んだりして、楽しい雰囲気を作りたい。	自分の得意なことを見てもらいたいな。	5年生はなんでも上手ですごい。
ルールはその時によって変わったりするんだな。	これなら、小学校で遊ぶときは〇〇ができそう！	一緒に遊ぶのうれしいな。	優しくて頼りになる。
		自分の思っていることを伝えたいな。	
困っている幼児には5年生に訊くよう促し、自分で関わろうとする気持ちをもてるよう支える。			

### 振り返り

#### 自己評価を☆の数で表す活動

うちのグループは体を動かす遊びをしていた。	お絵描きが好きって言うていたから、次は…
途中で飽きてそうだった。どうすればよかったのかな？	どうすれば、みんなで楽しく遊ぶことができるのかな？

#### 2回目の遊びに向けて、作戦を考えよう

まず、〇〇さんがやりたいて言っていた遊びをしよう！	もっと、「すごい」とか「上手」とか褒めてあげたいな。
内容	関わり方

相手に合わせた内容や関わり方を決めたら、きつとうまくいきそうだ！

今日は5年生とどんな遊びをしたの？遊んでみてどんな気持ち？



学級に戻りグループごとに遊んだことや楽しかったことを発表し合う機会をつくり共有することで次に期待がもてるようにする。

こんな遊びをしたよ。

だんだん楽しくなってきたよ。

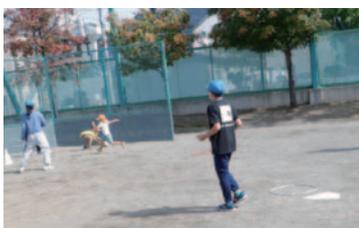
また一緒に遊びたいな！



## 交流3回目 一緒に遊ぼう②

### (小学校で幼児の好きな遊びや興味のあることを考えて一緒に遊ぶ活動)

初めての場所で緊張しているかもしれないな。徐々に慣れてくれたらいいな。	ボールは少し空気を抜いておいて、けがをしないようにしておいたよ。	体育館大きいな広いな。	体を動かしたいな。
〇〇さんが楽しそうだから、もうちょっとこの遊びを続けよう。	どうしよう。なんだかつまらなそうだな。次の遊びは大丈夫かな。	遊びたいけれど、どうしたらいいんだろう。	
		自分の考えを聞いてくれてうれしいな。	
5年生の関わりを見守り、困っている幼児をさりげなく知らせる。			



振り返り

自己評価を☆の数で表す活動

1回目より、〇〇さんの笑顔が見られたよ！ありがとうって言われたよ。

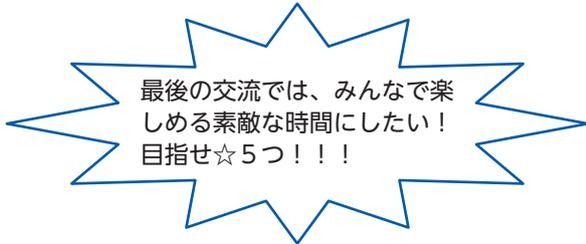
園庭で遊ぶより、楽しくなさそうだった気がする。どうしよう。

今日はどんなことをしたの？どんな気持ち？



ありがとうの気持ちを言葉で伝えたいな。

5年生とやった遊びが、おもしろかった。



幼稚園でもできそうだよ。やってみたい！



3回目の遊びに向けて、作戦を考えよう

もっと、〇〇さんのことを知りたいな。なかよしドアから入って、お話ししたいな。

関わり方のコツを幼稚園の先生に訊いてみたいな。

5年生と楽しんだ遊び（キックベースボールなど）を自分たちで再現できるよう必要な物を用意する。

幼児同士で遊びを再現できるように、教師も仲間に入り遊びを支える。

関わりが上手な友達のブックを見てみよう！

他のグループとも作戦を話し合ってもいいかも！

教師同士の中間振り返り

- ・2回目の遊びが終わった後、幼児・児童の姿や今後の方向性を確認した。
- ・「作戦」を実行するため、中休みの時間を使って5年生が園庭に遊びに来るなど、主体的に学ぶ姿があった。
- ・子どもたちに育てたい姿を共有しながら活動を進めることができた。



- 園の先生へのインタビュー活動
- 中休みなどの自発的な交流活動
- 最後の交流に向けた作戦を整理する活動 など

作戦

内容 関わり方

交流4回目 一緒に遊ぼう③(もう1回小学校で幼児と一緒に遊びを楽しむ活動)

サッカーのチーム分けを工夫してみたよ！

〇〇さんの考えを生かして、遊びを少し変えてみたよ。

〇〇さんと遊ぶの楽しみだな。



いっぱい体を動かしたそうだったから、前回より広い範囲で遊ぶぞ！

ごっこ遊びで自分たちも役になってあげるよ！

今日は「〇〇しよう」って誘ってみようかな。

サッカーで真剣勝負がしたいな。



最後の交流であることを話し、期待をもてるようにする。

振り返り	
自己評価を☆の数で表す活動	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">最後まで…少し残念。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">楽しかったな。</div> </div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">今回は☆5つだよ！今までで一番上手にできた！</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">ちょっとうまくいかなかったかも。次があればいいのに。</div>	<div style="background-color: #fff9c4; padding: 5px;">交流を振り返る言葉を掛け、それぞれの幼児の思いを5年生にどう伝えるか幼児と一緒に考える。</div>
<div style="background-color: #fff9c4; padding: 5px;">最後の交流の準備をしよう</div> <div style="padding: 5px;">相手に渡す物や言葉を準備する活動</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">メダルをあげたいな！</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">写真付きのお手紙がいいな。</div>	
<h3>交流5回目 最後に「お別れ会」をしよう</h3>	
<div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">また会えるといいね。</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">5年生はやっぱりかっこいいな。小学校に行くのが楽しみだな。</div>
評価・育っている力	
<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 園児が楽しむ姿を目の当たりにし、関わる楽しさを感じたことで「他者との関わり」全般に前向きになる子が多かった。</li> <li>▶ 関わるための事前準備は当然必要だが、遊びの様子などから柔軟に考え、その場でベストを尽くそうとする子が増えた。</li> <li>▶ 5年生が考えて園児に提示した遊びがうまくいかなかったとき、園児の思いを聞いたり、寄り添ったり、言葉には表せない姿を見取ったりしながら試行錯誤していた。</li> <li>▶ 関わりの方が高まり、園児は5年生に対して自分の思いを表しやすくなっていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 回を重ねることで5年生に親しみや信頼感もち関わりを楽しんでいた。</li> <li>▶ 導入と振り返りの時間を大切にすることで、思いを伝えたい気持ちが大きくなった。また、友達の発表をよく聞いたり、相手に伝わるように話したりする姿が見られた。</li> <li>▶ 5年生との遊びを園でも再現し、うまくいかないこともあったが、自分たちなりのルールややり方を粘り強く考えていた。</li> <li>▶ 園以外の場や相手に対しても、自分の思いを言葉で伝えていた。</li> </ul>
<p><b>次年度への引継事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一緒に作成した共通指導案をもとに、互いのねらいや子どもたちに育みたいことを明確にしよう！</li> <li>・5年生が提供した遊びを「やってもらう」交流ではなく、関わりから学びを深める内容にしよう！</li> <li>・出会いの場を幼稚園に設定し、園児が安心感をもってスタートできるようにしよう！</li> <li>・なかよしドアの開放、交流のスタート時期などの確認は適宜連絡を取り合おう！</li> </ul>	



#### アドバイザーより

- ▶ 子どもだけでなく、先生同士も思いを伝え合い、仲良くなっていったことで、互いの教育を理解し、子どもたちへの指導や関わり方を意識できたようですね。
- ▶ この共通指導案は、記録として活用することもできそう！  
当日の写真や子どもが発した言葉などを、実施後に添付、上書きしていくと、より学びのプロセスと、育まれた力を見取ることができるのでは？

1年生と6年生の担任に聞いてみた！

今年の6年生と1年生の関わりの様子はどうでしたか？

## 園児との交流を経験した6年生の関わりは これまでと全然違う！

遊ぶ力は  
すでにある



6年生担任

年長児との遊びの経験があるので、入学当初の1年生との関わりの基盤はできていました。「1年生と遊ぶ力」はすでにあるので、それ以外のところでどのようにサポートするかなど、新たな課題に取り組むことができました。5・5デーの時は「接し方」に本当に苦労していたけれど、経験が見通しや自信につながっていたと思います。

6年生の関わり方はとても素敵です。「教えよう」「やってあげよう」ではなく「次はどうする？」「覚えてる？」「どうしたの？」など寄り添いと見守りの目で見てくれます。1年生も自分たちが受け入れられていること、そして、かわいがられていることを実感しているのだと思います。これが「安心」ということですね。



1年生担任

安心を生む  
温かな関わり

遊んでもらう・遊んであげるという関係ではなく  
自然と一緒に遊び、関わっている



5・5デーで育まれた力が生かされている



アドバイザーより

- ▶ 6年生の子どもたちは、5・5デーの活動を通して「幼児期」を知っているからこそ、1年生の行動や気持ちを予測・想像した温かで適切な関わりとなっているのだと感じます。このことは教師の指導の質にとっても大切な視点ですね。
- ▶ 育てたい姿がそれぞれにあり、互いに教育課程に位置付けている活動や学習です。意図的・計画的な取組による効果がよく分かりました。

## 6 - ② 幼児・児童の交流活動例 1年 生活科より

本取組では、1年生と校区の幼稚園・保育所の年長5歳児が遊び等の交流を行う。

**1年生**は生活科「きせつとなかよし あき」の単元を活用し、おもちゃ作りを軸に「5歳児におもちゃを楽しんでもらう」という目的意識をもたせる。幼稚園・保育所の子を招待して、自分の作ったおもちゃで遊んでもらったという経験を通じ、「〇〇がうまくいってよかった。」「〇〇がむずかしかった。」など、自分自身の気付きを大切に、自己の成長につなげていきたい。

**幼稚園・保育所**は交流を通して小学校への期待や憧れの気持ちを高めたり、交流から刺激を受けたことを自分たちの遊びに取り入れ、友達と一緒に楽しもうとしたりする姿につなげていきたい。

幼稚園と小学校の  
共通指導案

### 見付ける 気付く わくわくおもちゃランド(5歳児と1年生の交流)

ねらい

**5歳児**おもちゃランドに興味をもって関わり、言葉でやりとりしながら楽しもうとする。

**1年生**自分達が作り、考えてきたおもちゃを園児に教えたり、一緒に遊んだりする中で、みんなで取り組んだことや他者との接し方などで上手くいったこと、難しかったことなどに気付き、今後の生活や行動に生かそうとする。

小学校

児童の姿

教師の支援や援助・環境の構成

幼児の姿

幼稚園・保育所

### 5月 小学校のグラウンドで1年生が運動会で踊るよさこいに関わって交流を実施済

「きせつとなかよし あき」より

- ① 「秋の宝物を見つけよう！」
- ② 「宝物をつかっておもちゃをつくろう！」  
→幼稚園・保育所の子たちにもこのおもちゃで遊んでもらいたいな……。 (目的意識)

ドキドキ ワクワク

幼児のいろいろな思いに共感しながら、安心できるような言葉や、いろいろな遊びを楽しむことができることに期待をもてるような言葉をかける。

### おもちゃランドで遊ぼう！

招待状が必要だね。

もっと面白いおもちゃを！

どうやって遊ぶの？

気付き

自信

うまく説明できたよ！

工夫

挑戦

楽しんでくれて  
うれしい！

やさしく教えて  
あげようね。

困っている幼児には、1年生に訊くよう促し、自分で関わろうとする気持ちをもつことができるよう支える。

「これ、やりたいです。」と言葉で伝えてみよう！

面白いね!! 次は〇〇をしてみよう！

保育者も積極的に関わり楽しさに共感し、楽しい雰囲気をつくる。

1年生の素敵なところや工夫しているところなど、言葉に表して知らせていく。

振り返り



園児がたくさんおもちゃで遊んでくれたよ。

こうしたらうまくいったよ。

わたしたちもできそう！

1年生はこうやっていたよ。



幼児の「やりたい!」という思いをすぐ実現できるように必要なものを用意して、自分たちなりに再現できるように支える。

評価・育っている力

- ▶ もっと楽しくするためにはどうしたらよいか試行錯誤していた。
- ▶ 小さい子に遊び方を分かりやすく伝えようとするなど、相手のことを考えながら行動していた。
- ▶ おもちゃが足りなくなるなど、うまくいかないことが出てきた時にどのように対応するかを考えながら行動していた。
- ▶ お店屋さんのやりとりが、事後の国語の学習に生きていた。
- ▶ 園とは異なる環境だったが、おもちゃランドに興味や好奇心をもって関わっていた。
- ▶ お店の紹介をよく聞き、自分で行きたいお店を決めて行動していた。
- ▶ 店員の1年生とのやりとりを重ねる中で、リラックスし、伝える言葉が増えていった。
- ▶ 1年生のお店がモデルとなり、園で再現して、年少組年中組をお客さんとして誘い、意欲的に遊ぶ姿があった。

次年度への引継事項

- ・校区の幼保小で共に関わり、共に学ぼう！
- ・事前打合せを行い、前年度の共通指導案をもとに**1年生と各園の思いを交流した上で取り組もう！**



R5 事前打合せより

自己肯定感を高めて2年生につなげたいな。(小)

コミュニケーションを大切にしたい。(幼保小)

言葉で伝えるって大事なことだよ。(幼保小)

1年生からの刺激や学校への憧れの気持ちを自分たちの遊びの意欲につなげたい。(幼保)

それぞれの  
ねらいにつながる

相手意識をもって伝えることや言葉足らずで行き違いになることがあるので、伝え方も意識させたいな。(小)

新設の園だからこのような経験が少ない。小学生や他の園の友達が「味方」なんだという安心感をもってほしいな。(保)



アドバイザーより

この3年間で幼小協働して作り上げてきたものは、作って終わりではなく、見直し・改善して子どもたちの実態に応じたもの、持続した取組にしていけることが大切です。

幼保小連携・接続の取組は、互いにwin-winであることが肝心です。この交流による育ちが、園の遊びの充実や他の教科の学習等で力を発揮することにつながり、とても大きな成果となりました。また校種間(幼小)の「縦の継続」、幼児教育施設間の「横の連携」も大切です。子どもにとっては多様な人との関わりにもつながり、保育者にとっては幼児教育に関する学び合いや質の向上の機会にもなるでしょう。



実践は 43 ページ